

人文學報

CIII

京都大學
人文科學研究所

2013

人 文 学 報

第 103 号

京都大学人文科学研究所

2013年3月

目 次

正倉院琵琶源流攷	外 村 中	1
廢墟のメシアニズム	向 井 直 己	45
——『ユダヤ教の本質』の二つの版から——		
ジャック・ラカン，理論の實踐：アルチュセールとの距離	上 尾 真 道	73
リアリズム小説の換喩的性格	北 村 直 子	101
19世紀初頭におけるグリモによる「グルマン」再定義の試み	橋 本 周 子	127
——新興富裕層の野卑と貴族的洗練のあいだ——		
書 評		
古典的共和主義としてのドイツ初期自由主義・初期立憲主義	阪 本 尚 文	149
—— Paul Nolte, “Bürgerideal, Gemeinde und Republik. “Klassischer Republikanismus” im frühen deutschen Liberalismus” を読む ——		
宇佐美齊教授 略歴・著作目録		155
横山俊夫教授 略歴・著作目録		169
彙 報（2011年1月～2011年12月）		199

『人文学報』投稿規定

1. 『人文学報』は、年に原則二回刊行される学術誌で、人文科学に関する関連領域の論文、研究動向、資料紹介、書評・書評論文、講演会記録などを掲載する。
2. 『人文学報』には、所内研究者、共同研究班班員、所内の客員（国内客員および外国人研究員）、名誉教授、招聘外国人学者、外国人共同研究者、研修員、受け入れ学術振興会特別研究員が投稿できる。これ以外にまた、編集委員会が適切と判断して投稿を依頼する場合がある。
3. 本誌の論文等は原則査読の対象となる。原稿は、査読を経た後、編集委員会の責任において採否を決定する。
4. 稿料は支払われない。但し、論文、書評論文執筆者には本誌1部が無料で提供される。また抜き刷り50部が無料で提供される。
5. 著者校正は2回とする。
6. 投稿締め切りは、毎年5月末日とする。原稿は、『人文学報』編集委員会宛てに送付することとする。
7. 原稿作成にあたっては、『人文学報』執筆要領に従うこととする。
8. 他雑誌への二重投稿についてはこれを禁じる。
9. 『人文学報』に掲載された論文等について、その著者は複製権（電子化する権利）と公衆送信権（公開する権利）にかんする許諾を人文科学研究所に与えたものとする。人文科学研究所は公開の便をはかるために、京都大学が設置したサーバから掲載論文等を画像あるいはPDFなどの形式で送信することができる。
10. 図版、写真などを掲載する場合は、投稿者の責任において、あらかじめそれら図版、写真の所蔵者、著作権者から許諾を受けるものとする。

『人文学報』執筆要領

1. 使用言語は原則日本語とする。以下は日本語論文を想定した要領である。
2. 論文には、日本語（800字程度）と欧文（200語程度）の要旨を添付する。日本語のキーワードを5点記す。
3. 投稿原稿は枚数をとくに制限しないが、論文については本文12,000～48,000字を目安とする。書評・書評論文については4,000～8,000字を目安とする。
4. 原稿の表紙に、論文、研究動向、資料紹介、書評、書評論文などの区別を明記する。ただし、この点に関する最終判断は編集委員会が行う。
5. 原稿は、ソフト名を明記し、電子媒体（Eメールの添付ファイル）とその紙媒体を提出する。
6. 原稿は、A4サイズとする。
7. 図表、写真などには、それぞれ通し番号と表題を付ける。それぞれの挿入場所を、本文の右側欄外に番号で指定する（手書きでよい）。
8. 引用文献・参照文献などの形式は各専門分野の慣行に従うこととし、とくに規定しない。
9. 注は後注とし、注には通し番号をつけ、本文とは頁を改めて作成する。本文中の注は、字肩に上付きで、1）、2）などと記す。また、右側欄外に注番号を記しておく（手書きでよい）。
10. 書評、書評論文、新刊紹介などの場合には、別紙に、著者名（フルネーム）、書名（副題、シリーズ名、巻数なども含めて）、刊行地、出版社、ページ数、定価などを記す。
11. 他の言語で既に発表したものと内容が重なる場合は、その旨明記する。

『人文学報』編集委員会のアドレス zinbungakuho@zinbun.kyoto-u.ac.jp

編集委員

石井美保

籠谷直人

高木博志

立木康介

水野直樹

人文学報 第103号

(京都大学人文科学研究所紀要 第171冊)

2013年3月21日 印刷
2013年3月25日 発行 非売品

発行所 京都大学人文科学研究所
京都市左京区吉田本町

印刷所 明文舎印刷株式会社
印刷者 中村 仁
京都市南区吉祥院池ノ内町10

THE ZINBUN GAKUHŌ

JOURNAL OF HUMANITIES

Vol. 103

MARCH 2013

CONTENTS

- The Origins and the Divergences of the Biwa-lutes as housed in the Shōsō-in A. Sotomura
- Messianism in Ruins. Comparative study
on the first and second editions of *The Essence of Judaism* N. Mukai
- La praxis de la théorie chez Jacques Lacan :
sa distance à Althusser M. Ueo
- Le caractère métonymique de la fiction réaliste N. Kitamura
- L'essai de redéfinir la notion du « Gourmand » par Grimod au début du XIX^e siècle :
Entre la voracité des nouveaux riches et le raffinement des aristocrates C. Hashimoto

Book Review

- Paul Nolte, "Bürgerideal, Gemeinde und Republik. "Klassischer Republikanismus"
im frühen deutschen Liberalismus" N. Sakamoto

Published

by

THE INSTITUTE FOR RESEARCH IN HUMANITIES
KYOTO UNIVERSITY

ISSN 0449-0274